

日本でのお風呂初体験

楊旺麗

日本語・日本文化研修留学生 中国

光陰矢のごとし。知らず知らずのうちに、日本に来てもうすぐ一年になりました。私にとって、日本での毎日は特別です。しかし、一番印象深いのはやはり日本のお風呂文化です。

和歌山に来た最初の夜、寮に着いたのはもう夜中 12 時でした。荷物を置いて、浴室に行って、ほこりだらけの体を洗おうとし、浴室に入ると、中の設備に驚かされました。中にバスタブがあります。日本のドラマのワンシーンで見たものを目の前にして、私は「これは日本の家庭なら必ずあるものだったのか」と思いました。私の中国の実家にも「温泉」と呼ばれるものがありますが、それと同じ設備でした。その日すぐに試したかったのですが、いろいろ試すには遅すぎて、シャワーだけを浴びて寝てしまいました。



その後、ある寒い夜に、私はついに初めて日本人のようにお風呂に入ることにしました。まず、バスタブを洗い、お湯をいっぱい入れて、中に入りました。最後に、お風呂から上がった後、お湯をすててしまいました。私は「気持ちいいけど、これは本当にもったいない」と思いました。毎日お風呂に入ると、水道代はどのくらいかかりますか？日本では家族全員でお風呂を使うことは知っていますが、お風呂に入る前にバスタブを洗う水も、使った後のお湯も無駄になりますよね？

疑問に思ったので、インターネットで関連調査を行いました。ネット上では水を節約する方法についていろいろと紹介されています。例えば、『お風呂の残り湯で上手に洗濯するコツ 6 つ』というページでは、6 つのお風呂の残り湯を再利用するための注意事項を紹介しています。調べるうちに、以前見た『5 時から 9 時まで』というドラマを思い出しました。その中には主人公が風呂に入る時、水面にペットボトルがいくつか浮いている場面が

ありました。その時はわからなかったのですが、調べてみると、主な目的はやはり節水のためだということがわかりました。お風呂に重い物を入れると、水面が上昇し、お湯の深さが増えます。少ないお湯でも、重い物をたくさん入れると、深いお湯になります。つまり、お風呂で使うお湯の量を節約できるのです。

家庭風呂を体験したあと、北海道で露天風呂に入る機会がありました。風呂に入る前に、壁に貼ってある指示に従って、全身の服を脱いで、タオルを持って、風呂場に入ります。シャワーを浴びてから、お風呂に入ります。その前にタオルはどうすればいいか分かりませんでした。壁に、タオルを水に入れることができないと書いてありますから。周りの人を観察してみると、タオルを頭に載せていたので、私もそうしました。しかし、なぜこのようにしますか？日本人の先生に聞いてみたら、その理由がわかりました。使ったタオルの上に石鹸などが残っている可能性があるのです、みんなのお風呂を汚さないようにそうするのだそうです。優しいですね。

お風呂に入ったら、なぜ日本人はこんなにお風呂が好きなのかが本当によく分かります。まず、お風呂に入ると、体の疲れを取ることができます。それに、水に囲まれて、私たちの精神もリラックスできます。それだけではなく、お風呂に入ったあと、肌もつやつやになります。風呂好きの日本人は生活を楽しむこともできるし、資源を浪費しないようにすることもできます。地理的には、日本は小さな国として人口が多いですが、資源をいかに合理的に利用するかが最大の問題です。たとえ苦しい環境の中でも、生活の楽しみを見出すことが日本人の知恵ではないでしょうか。

お風呂に入ったあと、街を歩くと、この国ともっと親しくなれたように感じました。みなさんも、いつか一緒に露天風呂に行きませんか。